

早稲田大学 文学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(現代文2問、古文1問、漢文1問)
難易度	昨年比、やや易化

〔大問別講評〕

(一) 評論文。「食と資本主義」について。

出典：藤原辰史『「食べること」の救出に向けて——『ナチスのキッチン』あとがきにかえて』。

《本文字数：約 5500 字＝昨年より約 600 字増加。設問数：8＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問一	やや易	【空欄補充】3段落後でまとめられている。その第一文にある。
問二	標準	【空欄補充】直後の「栄養摂取」との対比である。
問三	やや易	【空欄補充】次段落の最終文で言い換えられている。
問四	やや易	【傍線部理解】傍線部1を筆者はプラス評価していることを捉える。ニは24～25行にあり、マイナス評価であることは明らかだろう。
問五	標準	【空欄補充】テイラー・システムを批判している。直前から導かれる結論は何か。
問六	標準	【理由説明】傍線部2以下最後まで本文と各選択肢を照合する。消去法も有効。
問七	標準	【傍線部説明】主に最終段落の内容から各選択肢を吟味する。消去法も有効である。
問八	標準	【趣旨合致】ハは空欄Dの次段落の内容に合致している。他の選択肢は、いずれも後半が不適切である。

(二) 評論文。「人類にとっての音楽の原点」について。

出典：伊東乾『なぜ猫は鏡を見ないか？——音楽と心の進化誌』。

《本文字数：約 3300 字＝昨年より約 600 字増加。設問数：9＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問九	やや難	【空欄補充】バルトークの「舞踏組曲」を筆者がどう捉えているかを、直前の「ダンス」という語に拘らずより広くつかまえる必要がある。直後の段落の最終文がヒントになる。
問十	やや易	【空欄補充】同段落の内容と、選択肢の各語の意味から容易に判断できる。
問十一	やや易	【傍線部説明】直後3行の内容と、「グローバル」の語義から容易に判断できる。
問十二	やや易	【空欄補充】同段落の内容から容易に判断できる。
問十三	標準	【傍線部説明】直後の「ラカンの言う鏡像段階は、答え～を与える」に着目。イは最後から2番目の段落内容に合致している。ニは「意味を持った～言葉」が誤り。
問十四	やや難	【文章整序】ハ→ロ→イ→ニである。イが2番目以下のどこにでも入るように見えて迷うが、ニの末尾の「～未分化な源流の一つだ」がこの部分のまとめとなっていることから、ニが最後だと判断する。
問十五	やや難	【指示内容理解】直前の一文から、「鏡像段階」開始後の子供にとっての「母親」を意味する語句を探す。6行後にある。ただし、前の二つの段落で「ママ」と呼ぶ時期が「鏡像段階」以前にもあるようにも読めて、やや難しく思える。
問十六	やや難	【趣旨合致】ハは「音を楽しむ」がやや疑問だが、紛らわしいイは「アレンジを加え」がより不適切であることから、ハを選択する。
問十七	標準	【漢字書き取り】いずれも正確に書きたい。

(三) 古文。出典：藤原俊成『俊成家集』

《本文字数：約 800 字＝昨年より約 50 字減少。設問数：8＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問十八	やや易	【空欄補充】和歌Eの「春より夏も暮れぬれど」がヒント。
問十九	標準	【句切れ】句切れの問題は、命令形・終止形・倒置法・係り結び・終助詞に着目。
問二十	やや易	【助動詞の指摘】「驚かれてぞ」の「れ」が自発の「る」の連用形。
問二十一	やや易	【空欄補充】和歌G・H・Iに共通する語句は「苔の下(＝墓の中)」。基本である。
問二十二・3	標準	【傍線部理解】直後の「そこと教へよ」をふまえて消去法で判断する。
問二十二・4	やや難	【傍線部理解】和歌Kが和歌Jへの返歌であることを意識する。消去法が有効。
問二十二・5	やや難	【傍線部理解】姨捨山の注を参考にして消去法で判断する。
問二十三	標準	【文学史】俊成の子で『新古今』の撰者といえば定家である。口は確定。ホは定家作と言われている作品だが、消去法で判断するとこの作品を選ぶしかない。
問二十四	やや難	【和歌解釈】「千代と契りし我がなかを」に着目する。この「我がなか」は、「夫婦仲」の意。
問二十五	標準	【古文常識】「六つの道」に着目する。「六道」「六道輪廻」は知っておきたい。

(四) 漢文。出典：袁采『袁氏世範』。

《本文字数：234 字＝昨年より 42 字減少。設問数：4＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問二十六	やや易	【空欄補充】後の「況父母乎」に着目して、抑揚形であることを見抜く。
問二十七	標準	【傍線部理解】傍線および次文の内容から判断する。
問二十八	標準	【傍線部理解】「最幼者…終愛之」の内容から判断する。
問二十九	標準	【傍線部理解】傍線の「縦」は「ほしいままにす」。前行の「幼者宜自抑」との対比関係を意識する。

〔総合コメント・今後の指針〕

全体の難易度は、昨年よりやや易化した。

大問一は、「食と資本主義」についての評論文。昨年より易化した。昨年の大問一は抽象度が高く読みにくかったが、今年は従来の抽象度に戻った印象だ。ただし、約 5500 字の長文である。基本・標準レベルの設問ばかりなので高得点を狙いたい。

大問二は、「人類にとっての音楽の原点」についての評論文。昨年並みの難易度である。やや難しい設問が散見されるので差がつくだろう。

大問三は、『俊成家集』。昨年よりやや難化した。歌集が出題されたので驚いた受験生もいただろう。和歌そのものを解釈させる設問が多く、差がつくと思われる。

大問四は、『袁氏世範』。昨年よりやや易化した。本学部の漢文は、句形や単語の知識だけで解ける設問は少なく、内容をしっかり把握しないと解けない設問が多い。漢文の学習もしっかりしておきたい。